研 究

アンモニア水の活用に向け針葉樹バークの堆肥化試験を実施中

当センターでは、縦型密閉堆肥化装置で鶏ふんを堆肥化する際に発生するアンモニア臭の軽減を目的として、昨年度よりアンモニアを水に吸収させて回収する技術の開発を目指しています。この方法では、濃度が約 0.6～2.8%のアンモニア水が回収できることが判明し、臭気低減効果だけでなく、回収物の資源としての活用も期待できます。

一方、針葉樹バークは製材工程で大量に発生する樹皮であり、堆肥化や燃料利用などに活用されています。しかし、針葉樹バークは炭素が多く窒素が少ないため、微生物による分解が進みにくく、堆肥化に長い期間を要することが課題となっています。そこで当センターでは、回収したアンモニア水の活用方法の1つとして、針葉樹バークに吸着させ、窒素分を付加した場合の堆肥化促進効果を検証しています。

今後は、針葉樹バークの分解状況などを調査し、アンモニア水の付加が堆肥化に及ぼす影響を明らかにする予定です。



製材工程で発生した針葉樹バーク



凝縮水を吸着（窒素分を付加）　　水を吸着（慣行）

堆肥化中の針葉樹バーク

畜 産 センター